

B-74 胸囲特大体型の胸部原型製図法について

東横短大 ○有馬 澄子
前島 幸子
池谷真知子

1. 年々体格がいちじるしく向上している傾向にあり、短大生の中にも胸囲90cm以上の学生が多くみうけられる。これらの人達は、通常の標準体を基準にした原型製図法によると、かなりの個所に多くの補正を加える必要が生じてくる。補正が多いことは、型紙補正の上からは採寸部位を多くとらねばならず、さらに仮縫補正の技術も要求される。いずれも初心者にはむづかしいことである。そこで、採寸部位はできるだけ少なくし、しかも補正も少なくすむような胸部原型製図法を、胸囲90cm以上の人について考えてみた。

2. 調査対象とした本学学生830名および関係者15名中、胸囲90cm以上の者は63名であった。そのうちから40名（昭和24年生～昭和19年生）を選び出し、胸部原型製図に必要な17個所の採寸を行なった。その採寸値を統計分析し、ごく一般的な7種類の原型製図法と比較検討し、その相違を摘出した。また、新製図法による理論値と実測値との適合性を検討した。

3. その結果、胸囲90cm以上の胸囲特大の人について、採寸の簡単な胸囲、背丈の2個所のみから各部位の値を割り出し、しかも補正がほとんどない胸部原型製図法を考え出した。